

2022年度

日本健康医療専門学校

シラバス (講義概要)

鍼灸学科

2年生

分野	科学的思考の基礎 人間と生活	保健体育			
立花紀世実					
必修	2単位 (30時間)	実技	2年次		
1 授業科目の概要・到達目標					
〈概要〉 心と体を一体としてとらえ、スポーツの専門的な理解と、高度な技術の修得だけではなく、その実践から生まれる豊かな心の発達を体験的に学習する。また、医療人として体の健康増進と心の発育・発達、そして運動の安全性について理解をすることで、患者等に対して、運動の合理的な計画案が作成できるようにする。					
〈到達目標〉 生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てるとともに、健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、豊かで明るい活力のある生活を営む態度を育てることが本講義の目的である。					
2 授業内容					
1回	オリエンテーション (概要説明)				
2回	運動が健康に及ぼす影響 (健康維持のための運動の必要性について学ぶ)				
3回	運動が健康に及ぼす影響 (健康維持のための運動の必要性について学ぶ)				
4回	基本的なストレッチ (基本的なストレッチを学び、柔軟性を高める)				
5回	基本的なストレッチ (基本的なストレッチを学び、柔軟性を高める)				
6回	脳と運動の関係 (身体を動かして脳を活性化する)				
7回	脳と運動の関係 (身体を動かして脳を活性化する)				
8回	心身の相関とストレス (心身相関のしくみ、ストレスの影響について学ぶ)				
9回	体つくり運動 (各種の体ほぐし運動、体力を高める運動を行い体力向上を目指す)				
10回	体つくり運動 (各種の体ほぐし運動、体力を高める運動を行い体力向上を目指す)				
11回	生涯スポーツの見方・考え方 (各ライフステージに応じたスポーツの特徴について学ぶ)				
12回	ライフステージに応じたスポーツ (自分に合ったスポーツライフステージを見つめよう)				
13回	ライフステージに応じたスポーツ (自分に合ったスポーツライフステージを見つめよう)				
14回	体育実技				
15回	最終評価				
3 履修上の注意					
主に体を動かす授業を行うため、準備体操はしっかり行い怪我がないようにする。 また、頭髪・ピアス・服装の乱れなどは厳禁とし評価対象とする場合があるため身だしなみはしっかりと整えるようにする。					
4 準備学習（予習・復習等）の内容					
体を動かすため、必ずジャージを着用すること。 身だしなみを整えるようにする。（頭髪・ピアス・服装の乱れなど）					
5 教科書					
6 参考書					
7 成績評価の方法					
単元終了時点で小テストを行い、計6回の平均点で評価する。また、平常点として出席率・授業態度等も評価の1つとする。					
8 その他					

専門基礎分野	疾病の成り立ち、その予防及び回復の促進	病理学概論				
瀧本 雄太	柔道整復師、鍼灸師免許を取得後、陽だまり鍼灸整骨院を開院。					
必修	2単位 (60時間)	講義	2年次			
1 授業科目の概要・到達目標						
〈概要〉 「人体の生理機能がくずれたとき、身体に何が起きているのか」をテーマに、人の疾病理解の基礎となる病因・発生機序・経過・予後など、疾病概念の本質を理解し、基礎的疾患に共通する総括的问题、すなわち退行性病変・代謝異常症・進行性病変・循環障害・炎症・免疫・腫瘍などを中心として、次の事項を学習する。						
〈到達目標〉 ①ヒトの組織・細胞・遺伝子障害とその修復について説明できる。②代謝障害、循環障害、炎症・免疫、腫瘍について説明できる。③ヒトの各臓器の主な疾患とその症状について説明できる。④本学科の学習を通じて国家試験レベルの事項とともに、チーム医療を担う医療人としての力を習得できる。 本講義の到達目標は病気の概念・定義を理論的にしっかりと習得し、最終的に幅広い基礎医学の知識と理解力をつけることにある。						
2 授業内容						
1回	第1章 総論 第2章 疾病の基本的考え方	16回	第8章 腫瘍③			
2回	第3章 病因①	17回	第9章 免疫異常・アレルギー			
3回	第3章 病因②	18回	第10章 先天性異常			
4回	第3章 病因③	19回	まとめ			
5回	第4章 循環障害①	20回	定期試験2			
6回	第4章 循環障害②					
7回	第5章 退行性病変①					
8回	第5章 退行性病変②					
9回	第6章 進行性病変①					
10回	定期試験1					
11回	第6章 進行性病変②					
12回	第7章 炎症①					
13回	第7章 炎症②					
14回	第8章 腫瘍①					
15回	第8章 腫瘍②					
3 履修上の注意						
日常生活で耳なじみの疾患から、そうでない疾患まで人間の疾病理解の基礎学問である。 意欲的に取り組んでもらいたい。						
4 準備学習（予習・復習等）の内容						
生理学の分野を問われる内容が多いので、一年生で履修した生理学をよく復習して臨んでもらいたい。 授業の復習は下線、カッコ抜き箇所を中心に理解と暗記に徹してもらいたい。						
5 教科書						
公益社団法人 東洋療法学校協会 編 『病理学概論 第2版』 医歯薬出版株式会社						
6 参考書						
サブテキストを配布する。						
7 成績評価の方法						
出席、受講態度（私語、飲食、ガムを噛む、スマートフォンの使用や机上放置等の禁止行為）、講義内でのテストの結果をふまえ、平常点とする。平常点に定期試験1、定期試験2の結果を加算し60%以上を合格とする。						
8 その他						
スマートフォンやデジタルカメラ等の器機による講義内容や板書の録音、録画は一切禁止とする。						

専門基礎	疾病の成り立ち、その予防及び回復の促進	臨床医学総論1	
町田 良太	2000年に資格取得 以後、鍼灸院勤務を経て、個人で開業する 並行して、中学・高校の部活動のトレーナーも務める		
必修	2単位 (60時間)	講義	2年次

1 授業科目の概要・到達目標

〈概要〉

本講義では、医療従事者として必要な身体診察及び治療に関する医学的知識、技能に関して学習する。

視診や触診、打診、聴診といった基本的な西洋医学的診察方法を理解しバイタルサインの測定方法とその意義、全身各部位の診察方法やその所見についての知識を修得する。

〈到達目標〉

患者を理解し正しく診断して適切な医療を行う上ができるようになる。また、鍼灸臨床における患者理解や、チーム医療の一員として鍼灸師が他の医療従事者と協力して患者の治療にあたることができるようになる。身体診察に関する知識は臨床医学各論や東洋医学臨床論などの臨床科目にも深く関係するため、関連付けて理解することも目標となる。

2 授業内容

1回	オリエンテーション	16回	全身の診察
2回	医療面接	17回	全身の診察
3回	医療面接	18回	全身の診察
4回	視診・触診・打診・聴診	19回	全身の診察
5回	バイタルサインの診察	20回	全身の診察
6回	バイタルサインの診察	21回	全身の診察
7回	バイタルサインの診察	22回	全身の診察
8回	バイタルサインの診察	23回	全身の診察
9回	神経系の診察	24回	全身の診察
10回	神経系の診察	25回	全身の診察
11回	神経系の診察	26回	局所の診察
12回	神経系の診察	27回	局所の診察
13回	神経系の診察	28回	局所の診察
14回	神経系の診察	29回	局所の診察
15回	定期試験1	30回	定期試験2

3 履修上の注意

居眠り等せず、積極的に参加すること

4 準備学習（予習・復習等）の内容

授業内容をしっかりと理解する目的で予習を行い、授業内容をしっかりと定着させる目的で復習を行うこと

5 教科書

臨床医学総論 医歯薬出版

6 参考書

特になし

7 成績評価の方法

試験による

8 その他

専門基礎分野	疾病の成り立ち、その予防及び回復の促進	臨床医学各論1	
瀧本 雄太	柔道整復師、鍼灸師免許を取得後、陽だまり鍼灸整骨院を開院。		
必修	2単位（60時間）	講義	2年次
1 授業科目の概要・到達目標			
〈概要〉 超高齢社会の到来、生活習慣病の増加などを受けて疾病構造が複雑化かつ多様化している現代社会において、鍼灸医学に対する期待も大きくなっている中で、はり師きゅう師が西洋医学的観点から臨床医学の知識を身に付けることは重大な意義を持つ。この講義では、疾病に関する医学的知識についてその概念を把握し、その原因、症状、検査、治療およびその予後について医療従事者に必要な基礎知識を修得する。この時間では主に整形外科疾患、婦人科疾患、精神化疾患などを中心に学習する。			
〈到達目標〉 臨床医学の中でもはり師きゅう師が臨床上最も治療にあたる頻度が高い整形外科疾患と、婦人科疾患や精神科疾患などを含めたその他の領域に関して知識を修得することで、臨床に際しても患者理解を深め、適切な施術が行えるようになることが目標となる。			
2 授業内容			
1回	A.総論 B.関節疾患①	16回	13-B.一般外科①
2回	B.関節疾患②	17回	13-B.一般外科②
3回	B.関節疾患③ C.骨代謝性疾患・骨腫瘍①	18回	13-B.一般外科③
4回	C.骨代謝性疾患・骨腫瘍② D.筋・腱疾患①	19回	まとめ
5回	D.筋・腱疾患② E.形態異常①	20回	定期試験2
6回	E.形態異常②		
7回	E.形態異常③ F.脊椎疾患①		
8回	F.脊椎疾患②		
9回	F.脊椎疾患③		
10回	定期試験1		
11回	G.脊髄損傷		
12回	H.外傷①		
13回	H.外傷②		
14回	I.その他の整形外科疾患①		
15回	I.その他の整形外科疾患② 13-A.小児科疾患		
3 履修上の注意			
整形外科疾患は臨床の現場でよく遭遇する疾患が多い。卒業後の現場で活かせる知識を、経験談を交え授業を進めていく。 意欲的に取り組んでもらいたい。			
4 準備学習（予習・復習等）の内容			
整形外科疾患がメインになるので身体構造、特に解剖学、生理学の知識復習をして臨んでもらいたい。 授業の復習は下線、カッコ抜き箇所を中心に理解と暗記に徹してもらいたい。			
5 教科書			
公益社団法人 東洋療法学校協会 編 『臨床医学各論 第2版』 医歯薬出版株式会社			
6 参考書			
サブテキストを配布する。			
7 成績評価の方法			
出席、受講態度（私語、飲食、ガムを噛む、スマートフォンの使用や机上放置等の禁止行為）、講義内でのテストの結果をふまえ、平常点とする。平常点に定期試験1、定期試験2の結果を加算し60%以上を合格とする。			
8 その他			
スマートフォンやデジタルカメラ等の器機による講義内容や板書の録音、録画は一切禁止とする。			

専門基礎分野	疾病の成り立ち、その予防及び回復の促進	臨床医学各論2	
菅谷 匡美	大学病院付属鍼灸センターに2年勤務、個人で訪問治療を行う。		
必修	2単位 (60時間)	講義	2年次
1 授業科目の概要・到達目標			
〈概要〉 超高齢社会の到来、生活習慣病の増加などを受けて疾病構造が複雑化かつ多様化している現代社会において、鍼灸医学に対する期待も大きくなっている中で、はり師きゅう師が西洋医学的観点から臨床医学の知識を身に付けることは重大な意義を持つ。この講義では、疾病に関する医学的知識についてその概念を把握し、その原因、症状、検査、治療およびその予後について医療従事者に必要な基礎知識を修得する。			
〈到達目標〉 特にこの時間では、超高齢社会において罹患数が増えてきている消化管疾患、肝胆脾疾患、呼吸器疾患、腎泌尿器疾患に関する知識を修得することで、臨床に際して病を抱えた患者の気持ちに寄り添えるよう患者理解を深めることが目標となる。			
2 授業内容			
1回	消化管疾患 (1) 口腔疾患	16回	呼吸器疾患 (1) 総論・感染性呼吸器疾患
2回	消化管疾患 (2) 食道疾患	17回	呼吸器疾患 (3) 感染性呼吸器疾患
3回	消化管疾患 (3) 胃・十二指腸疾患	18回	呼吸器疾患 (4) 閉塞性呼吸器疾患①
4回	消化管疾患 (4) 胃・十二指腸疾患	19回	呼吸器疾患 (5) 閉塞性呼吸器疾患②
5回	消化管疾患 (5) 腸疾患	20回	呼吸器疾患 (6) 拘束性呼吸器疾患①
6回	消化管疾患 (6) 腸疾患・腹膜疾患	21回	呼吸器疾患 (7) 他の呼吸器疾患
7回	消化管疾患 (7) 追加	22回	腎・尿器疾患 (1) 原発性糸球体腎炎
8回	肝・胆・脾疾患 (1) 肝臓疾患	23回	腎・尿器疾患 (2) 原発性糸球体腎炎
9回	肝・胆・脾疾患 (2) 肝臓疾患	24回	腎・尿器疾患 (3) 腎不全
10回	肝・胆・脾疾患 (3) 肝臓疾患・胆道疾患	25回	腎・尿器疾患 (4) 腎不全・感染症
11回	肝・胆・脾疾患 (4) 胆道疾患	26回	腎・尿器疾患 (5) 感染症
12回	肝・胆・脾疾患 (5) 脾臓疾患	27回	腎・尿器疾患 (6) 腫瘍性疾患・結石症
13回	肝・胆・脾疾患 (6) 脾臓疾患	28回	腎・尿器疾患 (7) 前立腺疾患
14回	定期試験1	29回	腎・尿器疾患 (8) 子宮疾患
15回	肝・胆・脾疾患 (7) 追加分	30回	定期試験2
3 履修上の注意			
私語は慎む。携帯電話や飲食物は机上に置かない。学則に則って受講をすること。			
4 準備学習（予習・復習等）の内容			
前回の授業内容の復習を行うこと			
5 教科書			
臨床医学各論 医歯薬出版社			
6 参考書			
臨床医学総論 医歯薬出版社			
7 成績評価の方法			
定期試験1および定期試験2それぞれ60%以上の成績を合格とする。			
8 その他			

専門基礎分野	疾病の成り立ち、その予防及び回復の促進	衛生学・公衆衛生学	
木下 立彦	開業鍼灸師		
必修	2単位(60時間)	講義	2年次
1 授業科目の概要・到達目標			
〈概要〉 衛生学は「健康な生活をおくるために何が必要か」をテーマに、生活環境を物理的・化学的・生物学的社会因子として考え、その中の障害因子と疾病との関わりについて学ぶ学問である。家庭・学校・職場・地域社会といった生活環境とのかかわりや食事と栄養、運動などのライフスタイル、メンタルヘルスを中心に健康の保持・増進のために必要な事を学ぶ。			
〈到達目標〉 病気の予防や健康増進の知識、衛生行政の仕組みや衛生統計、鍼灸師として必須の知識となる消毒法や感染予防対策についても学び、健康について多方面にわたる知識を身に付けることを目標とする。			
2 授業内容			
1回	衛生学・公衆衛生学の活動と意義①	16回	母子保健①
2回	衛生学・公衆衛生学の活動と意義②	17回	母子保健②
3回	健康①	18回	学校保健①
4回	健康②	19回	学校保健②
5回	健康③	20回	成人・高齢者の保健①
6回	ライフスタイルと健康①	21回	成人・高齢者の保健②
7回	ライフスタイルと健康②	22回	感染症①
8回	ライフスタイルと健康③	23回	感染症②
9回	環境と健康①	24回	消毒法①
10回	環境と健康②	25回	消毒法②
11回	産業保健①	26回	疫学①
12回	産業保健②	27回	疫学②
13回	精神保健①	28回	保健統計①
14回	定期試験①	29回	保健統計②
15回	精神保健②	30回	定期試験②
3 履修上の注意			
私語は慎む。携帯電話・スマートフォン・飲食物は机上に置かない。学則に則って受講をすること。			
4 準備学習（予習・復習等）の内容			
授業内で確認テスト適宜行う予定			
5 教科書			
衛生学・公衆衛生学（東洋療法学校協会編）			
6 参考書			
シンプル衛生公衆衛生学（南江堂）			
7 成績評価の方法			
1、定期試験①60%・定期試験②60%で単位認知する 2、出席状況・授業態度を①の点数に加味することがある			
8 その他			
シラバスは状況により変更することがあります　　その時は適宜お伝えします			

専門基礎分野	保健医療福祉とはり及びきゅうの理念	社会保障制度、職業倫理	
野口 智立	2007年より鍼灸治療院に勤務し、現在は訪問治療を個人で行う。		
必修	1単位（15時間）	講義	2年次
1 授業科目の概要・到達目標			
〈概要〉 医療保険に関わるはり師・きゅう師の立場として、わが国の社会保障制度を理解することは不可欠である。また、医の倫理、インフォームドコンセントなどを患者に対応する立場として理解することも必要である。この講義では、はり師・きゅう師が関わる医療保険をはじめとする社会保障制度を理解し、医の倫理をとその考え方の変遷を理解し、現代の臨床での具体的な事由などを取り上げて、理解し実践出来ることを目標に学習する。			
〈到達目標〉 社会保険制度を理解し、医療保険を業務で適正に利用することが出来るようになると、また医療保険以外でも患者に適切な指示や助言が出来るようすることを目標とする。職業倫理に関しては、はり師・きゅう師として必要な職業倫理を理解し実践出来るようになる。			
2 授業内容			
1回	社会保障制度① 社会保障とは		
2回	社会保障制度② 社会保険 療養費		
3回	社会保障制度③ 医療保険		
4回	社会保障制度④ 介護保険		
5回	職業倫理① 医療者の倫理		
6回	職業倫理② 医療者と患者の倫理		
7回	職業倫理③ 施術者の倫理		
8回	定期試験		
3 履修上の注意			
4 準備学習（予習・復習等）の内容			
日本の社会保障制度について事前に調べておくこと。			
5 教科書			
授業の際にプリントを配布する。			
6 参考書			
7 成績評価の方法			
筆記試験（定期試験）にて60%を合格とする。 小テストがあった場合その得点を成績に加味する。			
8 その他			

専門分野	臨床はり学、臨床きゅう学	東洋医学臨床論1	
阿部 好史	実務経験 臨床歴2年 開業鍼灸師		
必修	2単位(60時間)	講義	2年次
1 授業科目の概要・到達目標			
〈概要〉 東洋医学臨床論は「東洋医学概論」で学習した疾病観、診断論、治療論などの基礎を応用し、日常の鍼灸臨床で遭遇しやすい疾病について、西洋医学・東洋医学それぞれの観点から鍼灸治療の適応・不適応と病理・病証・鑑別及びその治療法について症候別に学ぶ學問である。この時間では主要症候のうち頭痛、めまい、咳と喘息、耳鳴りと難聴、便秘と下痢、月經異常、不眠を中心に学習していく。 上記の症候についてその診察の仕方とポイント、証決定の手順と方法、鑑別のポイント、治療計画の立案、治療穴の配穴と補瀉手技の決定までを総合的に学んでいく。			
〈到達目標〉 この時間では主要症候のうち頭痛、咳と喘息、めまい、耳鳴りと難聴、便秘と下痢、月經異常を中心にその診察の仕方とポイント、証決定の手順と方法、鑑別のポイント、治療計画の立案、治療穴の配穴と補瀉手技の決定までを総合的にトレーニングし、臨床で実践できるようになることを最終的な目標とする。			
2 授業内容			
1回	治療総論と基礎の復習	16回	咳嗽・喀痰
2回	治療総論と基礎の復習②	17回	呼吸困難
3回	治療総論と基礎の復習③	18回	鼻閉・鼻汁
4回	頭痛①	19回	脱毛症
5回	眼精疲労	20回	耳鳴り難聴
6回	気分障害	21回	排尿障害
7回	めまい	22回	勃起障害
8回	胸痛・動悸息切れ	23回	疲労と倦怠感
9回	血圧異常	24回	発熱
10回	睡眠異常	25回	冷えのぼせ
11回	食欲不振	26回	浮腫
12回	腹痛・便秘・下痢	27回	女性特有の症候
13回	恶心嘔吐	28回	小児特有の症候
14回	定期試験1	29回	老人特有の症候
15回	歯痛	30回	定期試験2
3 履修上の注意			
何かに臨むときは準備が必要です。試験を受けるときは試験の準備をし、試合をするときは試合の準備をします。講義を受けるときも同じです。本講義に限らず座学は睡魔との闘い、「意欲と努力で克服する心構え！」自分で決めた道です。これを準備して臨むこと！			
4 準備学習（予習・復習等）の内容			
臓腑生理と五行表は暗記必須			
5 教科書			
東洋医学臨種論 東洋医学概論			
6 参考書			
東医四診の手引き			
7 成績評価の方法			
定期試験を各60点以上で合格			
8 その他			

専門分野	臨床はり学、臨床きゅう学	東洋医学臨床論2	
高松 巧	鍼灸接骨院5年勤務		
必修	2 単位(60時間)	講義	2 年次
1 授業科目の概要・到達目標			
〈概要〉 東洋医学臨床論は「東洋医学概論」で学習した疾病観、診断論、治療論などの基礎を応用し、日常の鍼灸臨床で遭遇しやすい疾病について、西洋医学・東洋医学それぞれの観点から鍼灸治療の適応・不適応と病理・病証・鑑別及びその治療法について症候別に学ぶ学問である。 この時間では主要症候のうち特に鍼灸臨床で取り扱う頻度の高い腰下肢痛、肩こり、頸肩腕痛、上肢痛、肩関節痛、膝関節痛、運動麻痺といった整形外科疾患を中心に学習していく。			
〈到達目標〉 上記の症候についてその診察の仕方とポイント、証決定の手順と方法、鑑別のポイント、治療計画の立案、治療穴の配穴と補瀉手技の決定までを総合的にトレーニングし、臨床で実践できるようになることが最終的な目標となる。			
2 授業内容			
1回	痺証①	16回	膝関節痛①
2回	痺証②	17回	膝関節痛②
3回	頸肩腕痛①	18回	運動麻痺①
4回	頸肩腕痛②	19回	運動麻痺②
5回	頸肩腕痛③	20回	運動麻痺③
6回	肩こり①	21回	スポーツ鍼灸①
7回	肩こり②	22回	スポーツ鍼灸②
8回	上肢痛①	23回	老年期の鍼灸治療
9回	上肢痛②	24回	小児の鍼灸治療
10回	肩関節痛①	25回	顔面神経麻痺①
11回	肩関節痛②	26回	顔面神経麻痺②
12回	腰下肢痛①	27回	顔面神経麻痺③顔面痛①
13回	腰下肢痛②	28回	顔面痛②
14回	定期試験1	29回	顔面痛③
15回	腰下肢痛③	30回	定期試験2
3 履修上の注意			
授業開始前に着席しておくこと。スマートフォン等の電子機器の使用不可授業に関係のない私語は慎むこと。その他学則に順守する。			
4 準備学習（予習・復習等）の内容			
1年時の解剖学（運動器・神経系）。東洋医学概論の知識をもとに進めていくため、運動器、神経系の解剖学的知識整理物質、臓腑の生理と病理を復習することが大事である。			
5 教科書			
東洋医学臨床論<はりきゅう編>			
6 参考書			
東洋医学概論 臨床医学各論			
7 成績評価の方法			
定期試験①と定期試験②を行いどちらも60パーセント以上を合格とする。			
8 その他			

専門分野	臨床はり学、臨床きゅう学	臨床はりきゅう論2	
金世野	鍼灸整骨院勤務7年		
必修	2単位(60時間)	講義	2年次
1 授業科目の概要・到達目標			
〈概要〉 経絡・経穴は、鍼灸の重要な要素である。鍼灸施術を行う際の反応点・診断点・治療点となるものであるため、鍼灸を学ぶ上でもその中核をなすものである。奇穴・奇經八脈について、鍼灸臨床に必要な基礎知識を習得する。奇穴は主治を理解し、取穴することが出来ることを目標とする。また、経穴を科学的・解剖学的な側面から探求することで、東洋医学的な側面との違いを考え理解する。			
〈到達目標〉 臨床において、経穴に対して鍼灸施術をするため、その深層にある筋肉や神経の走行を理解することが必要不可欠である。解剖学的知識を意識して取穴が出来ることを目標とする。具体的に習得する範囲として、1. 奇穴、2. 奇経八脈、3. 現代研究、4. 経穴と筋肉・神経までとし、解剖学と経穴の知識をリンクさせることで、より臨床的な講義を展開し、理解度を深める。			
2 授業内容			
1回	オリエンテーション	16回	十四経脈復習
2回	奇経八脈1	17回	運動器系・神経系の復習
3回	奇経八脈2	18回	頭部の経穴と筋肉・神経
4回	骨度法	19回	頸肩部の経穴と筋肉・神経
5回	奇穴(頭部)座学・取穴	20回	部位別取穴(頭顔面部・頸肩部)
6回	奇穴(腹部・背部)座学	21回	上肢の経穴と筋肉・神経1
7回	奇穴(腹部・背部)取穴	22回	上肢の経穴と筋肉・神経2
8回	奇穴(上肢・下肢)座学	23回	上肢の経穴と筋肉・神経3
9回	奇穴(上肢・下肢)取穴	24回	部位別取穴(上肢)
10回	経絡経穴の現代的研究	25回	体幹の経穴と筋肉・神経
11回	取穴復習(体幹)	26回	部位別取穴(体幹)
12回	取穴復習(上肢)	27回	下肢の経穴と筋肉・神経1
13回	取穴復習(下肢)	28回	下肢の経穴と筋肉・神経2
14回	定期試験1	29回	部位別取穴(下肢)
15回	復習	30回	定期試験2
3 履修上の注意			
取穴実技においては実技細則を遵守すること。実技細則違反は受講を認めない。 学則に従い受講すること。			
4 準備学習（予習・復習等）の内容			
授業冒頭に確認試験を行うため、毎時間復習をして臨むこと。			
5 教科書			
新版 経絡経穴概論 医道の日本社			
6 参考書			
鍼灸学 経穴編(東洋医学出版社)、プロメテウス解剖学アトラス、カラー版 経穴マップ 第2版			
7 成績評価の方法			
定期試験1および定期試験2、経穴番付それぞれ60%以上の成績を合格とする。 暗唱試験の合格者に試験の受験資格を与える。			
8 その他			

専門分野	臨床はり学、臨床きゅう学	臨床はりきゅう論3			
谷 佳奈	美容系のサロンに3年、リハビリ施設に3年勤務				
金 世野	鍼灸整骨院勤務 7年				
必修	2単位 (60時間)	実技	2年次		

1 授業科目の概要・到達目標

〈概要〉

鍼灸臨床において患者を治療する際は、医療面接と身体診察から得た情報をもとに病態の鑑別と治療計画の立案を行う。この講義では鍼灸臨床に必要な医療面接と身体診察についてその理論を理解し、実践的な技術を身に付けることを中心課題とする。

医療面接では良好な患者-鍼灸師関係を構築するために必要なコミュニケーション能力や、医療面接に関する基本的な知識・技術・態度を、ロールプレイを通じて身に付けることを目標とする。身体診察では東洋医学的身体診察として脈診・腹診・背候診・舌診についてその理論を学び技術を身に付け、西洋医学的身体診察としては整形外科的理学検査を中心にその理論を学び技術を身に付ける。

〈到達目標〉

医療面接と身体診察を用いて病態を把握する能力を身につけ、実際の診察技術として行えるようになることを最終的な到達目標とする。

2 授業内容

1回	四診について	16回	ガイダンス・医療面接①
2回	舌診①	17回	医療面接②
3回	舌診②	18回	医療面接③
4回	脈診①	19回	医療面接④
5回	脈診②	20回	医療面接⑤
6回	腹診①	21回	整形外科的理学検査①
7回	腹診②	22回	整形外科的理学検査①
8回	背候診①	23回	整形外科的理学検査①
9回	背候診②	24回	整形外科的理学検査①
10回	問診①	25回	整形外科的理学検査①
11回	問診②	26回	整形外科的理学検査①
12回	総復習	27回	整形外科的理学検査①
13回	総復習(筆記試験)	28回	復習
14回	総復習	29回	復習(筆記試験)
15回	定期試験	30回	定期試験

3 履修上の注意

実技細則違反は受講を認めない。各自確認し、厳守すること

ロールプレイを実施して授業を進めていくので、積極的に参加すること。

4 準備学習（予習・復習等）の内容

東洋：東洋医学概論の教科書を必ず持参する事、東洋医学臨床論Ⅰ及び応用実技Ⅰの授業内容をリンクさせながら受講する事

西洋：授業日程に沿って当該項目の内容を予習すること。授業中は配布したプリントの穴埋めに必要事項を記入し、要点を見直し出来るようにすること。臨床医学各論Ⅰ、解剖学などを予習していることが望ましい。

5 教科書

新版東洋医学概論（医道の日本社）、臨床医学総論（医歯薬出版株式会社）

6 参考書

鍼灸臨床問診・診察ハンドブック（医道の日本社）

7 成績評価の方法

東洋：総復習(筆記試験)で筆記試験を実施する。筆記試験と実技試験の結果を合算し60%以上で合格とする。

西洋：総復習(筆記試験)で筆記試験を実施する。筆記試験と実技試験の結果を合算し60%以上で合格とする。

8 その他

専門分野	臨床はり学・臨床きゅう学	あはきの適応判断	
鈴木 誠	臨床経験10年 現在は個人で訪問治療、スポーツトレーナーとして活動。		
必修	1単位 (30時間)	講義	2年次

1 授業科目の概要・到達目標

〈概要〉

実際の臨床現場では時に鍼灸治療不適応の患者に遭遇する場合がある。この時間では鍼灸師が行える医療面接および身体診察の結果から、鍼灸治療の適不適について判断できるように、医療施設への紹介を検討すべき疾患の症状・所見について学ぶ。

具体的な内容として実際の診察技術として運動機能の検査、感覚機能の検査、反射検査、脳神経系の検査、髄膜刺激症状検査などの検査技術を修得するとともに、臨床における鍼灸治療の適不適を総合的に判断する知識を学ぶ。

〈到達目標〉

運動機能の検査、感覚機能の検査、反射検査、脳神経系の検査、髄膜刺激症状検査などの検査技術を修得することで、臨床における鍼灸治療の適不適を総合的に判断する能力を身に付けることを目標とする。

2 授業内容

- 1回 ガイダンス
- 2回 整形外科的理学検査復習①
- 3回 整形外科的理学検査復習②
- 4回 整形外科的理学検査復習③
- 5回 神経診察① 運動系検査
- 6回 神経診察② 運動系検査
- 7回 神経診察③ 反射検査
- 8回 神経診察④ 感覚系検査
- 9回 神経診察⑤ 脳神経検査
- 10回 神経診察⑥ 脳神経検査・髄膜刺激徵候
- 11回 鍼灸治療適応疾患の鑑別① 整形外科疾患
- 12回 鍼灸治療適応疾患の鑑別② 整形外科疾患
- 13回 鍼灸治療適応疾患の鑑別③ 神経疾患
- 14回 鍼灸治療適応疾患の鑑別④ 内臓疾患
- 15回 定期試験

3 履修上の注意

学生規則・実技細則を遵守して受講すること。

4 準備学習（予習・復習等）の内容

患者の病態を鑑別するためには、先ず人体の正常な構造（解剖学）と機能（生理学）を理解しておく必要があるため、1年次に学んだ解剖学・生理学をしっかり復習して授業に臨むこと

5 教科書

6 参考書

7 成績評価の方法

筆記試験、実技試験を合算し60%以上の点数を合格とする。

8 その他

専門分野	臨床はり学、臨床きゅう学	病態生理	
長坂 仁詩	往診（個人事業）、国試黒本編集長		
必修	1単位（30時間）	講義	2年次
1 授業科目の概要・到達目標			
〈概要〉 病態生理学とは、病気のときに体内で起きている生理学的变化を把握するための科目のこと。これが正しく理解できないと、当然、正しい治療方針の立案はできない。患者さんの体内で生じている機能や構造の乱れを認識し、正常な機能や構造の知識に照らして「どうしてそうなっているのか」を把握し、「よりよい状態にするために、こうすればいいのか」につなげるための素地をつくる。			
〈到達目標〉 学校内の臨床実習にて、患者さんが訴える主要な症状の原因を把握し、活用できる知識を習得することを目標とする。			
2 授業内容			
1回	肩こり		
2回	浮腫		
3回	貧血		
4回	発熱		
5回	胃痛・消化管症状		
6回	不眠		
7回	頭痛・目眩		
8回	腰痛		
9回	咳		
10回	全身倦怠感		
11回	恶心・嘔吐		
12回	皮膚症状		
13回	ストレス関連症状		
14回	総復習		
15回	試験		
3 履修上の注意			
4 準備学習（予習・復習等）の内容			
主に生理学の知識が必要となる。			
5 教科書			
6 参考書			
7 成績評価の方法			
試験で60点以上の成績をもって合格とする。※最終成績は、受講態度・出席状況を加味する。			
8 その他			

専門分野	臨床はり学、臨床きゅう学	生体観察	
長坂 仁詩	往診（個人事業）、国試黒本編集長		
必修	1単位 (30時間)	講義	2年次
1 授業科目の概要・到達目標			
〈概要〉 鍼灸師は、2人として同じではない人体を、眺めるだけでなく、実際に触れられる必要がある。本科目では、系統解剖学で学習した構造同士がつくる解剖学的な特異構造に焦点を当てる。その多くは、鍼灸領域で有用な治療点として用いられることが多い。 知識の習得により、解剖学的に脆弱な部位を避けられるようになり、また目標構造を的確に狙い、効率の良い施術が行えるようになる。			
〈到達目標〉 各部の局所解剖を学ぶことで、人体についての理解を深め、安全で効果的な施術をする際の拠り所となる知識を身に付けることを目標とする。			
2 授業内容			
1回	体幹の局所解剖		
2回	体幹の局所解剖		
3回	体幹の局所解剖		
4回	体幹の局所解剖		
5回	体幹の局所解剖		
6回	上肢の局所解剖		
7回	上肢の局所解剖		
8回	上肢の局所解剖		
9回	下肢の局所解剖		
10回	下肢の局所解剖		
11回	下肢の局所解剖		
12回	下肢の局所解剖		
13回	下肢の局所解剖		
14回	総復習		
15回	定期試験		
3 履修上の注意			
4 準備学習（予習・復習等）の内容			
骨の部分名称、筋の走行、主要な神経・血管の走行等。系統解剖学の知識が必要となる。			
5 教科書			
解剖学第2版 東洋療法学校協会編			
6 参考書			
7 成績評価の方法			
試験で60点以上の成績をもって合格とする。 ※最終成績は、受講態度・出席状況を加味する。			
8 その他			

専門分野	実習	はりきゅう実技2A	
谷 佳奈	美容系のサロンに3年、リハビリ施設に3年勤務		
必修	2単位 (60時間)	講義	2年次

1 授業科目の概要・到達目標

〈概要〉

鍼灸臨床において、どの経穴をどのような場合に使用するかは必須となる知識である。この授業の前半では鍼灸臨床において使用される頻度の高い経穴と取り上げ、どのような場合に用いられるか、また実際に刺鍼する場合の深度や角度・注意すべき点などについて学ぶ。またカルテの作成についても学び、実際作成してみる。後半は具体的な症状であったり弁証であったりを想定し、その治療に使える経穴について学んでいく。

〈到達目標〉

鍼灸臨床において使用される頻度の高い経穴と取り上げ、取穴し経穴に対して刺鍼・施灸ができるようにすることを目標とする。

2 授業内容

1回	オリエンテーション	16回	色々なタイプの頭痛・肩こり・腰痛①
2回	下腿にある経穴	17回	色々なタイプの頭痛・肩こり・腰痛②
3回	上肢にある経穴	18回	東洋医学的な治療穴①－気滞証－
4回	手足にある経穴	19回	東洋医学的な治療穴②－陰虚証－
5回	頭顔面部にある経穴	20回	東洋医学的な治療穴③－気虚証－
6回	腹部にある経穴	21回	東洋医学的な治療穴④－血虚証と血瘀証－
7回	頭痛に対する経穴	22回	総復習①
8回	腰痛に対する経穴	23回	総復習②
9回	肩こりに対する経穴	24回	定期試験
10回	自律神経を整える経穴		
11回	六十九難脈診と刺鍼		
12回	カルテの作成①		
13回	カルテの作成②		
14回	美容鍼①		
第15回	美容鍼②		

3 履修上の注意

実技細則違反は受講を認めない。各自確認し、厳守すること。

4 準備学習（予習・復習等）の内容

毎回の授業で要穴チェックの口頭試問と取穴をする。各自復習して臨むこと。経穴課題とミニテストを実施する。全て提出されていない場合、最終評価を取り消す。

5 教科書

6 参考書

臨床経穴ポケットガイド361穴(医師薬出版株式会社)

7 成績評価の方法

実技試験を実施する、60点%以上を合格とする。またカルテの作成課題も評価に加味する。毎回の授業で経穴課題を配布し翌週確認テストを実施する。ただし、課題がクリアできていないものについては最終評価を取り消す。

8 その他

日によって授業時間数が2コマ又は3コマの場合がある為、授業内容（回数）を24回で表記しています。

専門分野	実習	はりきゅう実技2B	
遠藤 好美	免許取得後、鍼灸マッサージ治療院に勤務		
必修	2単位（60時間）	実技	2年次
1 授業科目の概要・到達目標			
〈概要〉 鍼灸臨床において骨・筋・その他の構造物の位置を知り実際に触診できること正確な取穴や安全で効果的な施術のために不可欠な知識である。この科目では体表より触知できる構造について実際に触診して確認していく。またそれに基づき安全な刺鍼深度・角度についても理解したうえで刺鍼・施灸ができるようになることを目標とする。			
〈到達目標〉 体表より触知できる構造について実際に触診がでて、それに基づき安全な刺鍼深度・角度についても理解したうえで刺鍼・施灸ができるようになる。			
2 授業内容			
1回	イントロダクション、灸頭鍼、台座灸	16回	下腿の筋の触診と刺鍼・施灸①
2回	前腕の骨の触診と刺鍼・施灸、隔物灸①	17回	下腿の筋の触診と刺鍼・施灸②
3回	前腕の筋の触診と刺鍼・施灸	18回	全身治療1
4回	肩甲骨と周辺の筋の触診と刺鍼・施灸	19回	全身治療2
5回	上腕部の触診と刺鍼・施灸、隔物灸②	20回	定期試験2
6回	胸部・腹部の触診と刺鍼		
7回	吸角療法		
8回	脊柱の触診と刺鍼・施灸 紙上施灸		
9回	背部の筋の触診と刺鍼・施灸 紙上施灸		
10回	定期試験1		
11回	頭部の骨の触診と刺鍼・施灸		
12回	顔面の筋の触診と刺鍼・施灸		
13回	骨盤の触診と刺鍼・施灸		
14回	骨盤の筋の触診と刺鍼・施灸		
15回	大腿と膝の触診と刺鍼・施灸		
3 履修上の注意			
実技細則を順守すること。自ら技術を習得しようとする積極的な態度で臨むこと。			
4 準備学習（予習・復習等）の内容			
1年次に学習した骨・筋についてしっかり復習しておくこと。			
5 教科書			
ボディ・ナビゲーション（アンドリュー・ピエル）			
6 参考書			
7 成績評価の方法			
指定された課題の提出状況と実技試験（鍼・灸）により評価を行う。指定された課題が提出されていない場合は評価取り消しとする。			
8 その他			

専門分野	実習	臨床実習前施術実技試験等	
遠藤 好美	免許取得後、鍼灸マッサージ治療院に勤務		
必修	1単位（30時間）	実技	2年次
1 授業科目の概要・到達目標			
〈概要〉 OSCE (Objective Structured Clinical Examination=オスキー) とは臨床実習を行う臨床能力を身に付けているかを試す客観的臨床能力試験のことである。この講義では3年次の臨床実習に向けて、1・2年次に学んだ医療面接、身体診察、取穴、施鍼、施灸について、必要な知識・技能・態度を修得しているかを確認する。鍼灸臨床の一連の流れを実践しながら各項目の評価を受け、基準に到達していない場合はフィードバックを受けて改善することが目的である。			
〈到達目標〉 3年次の臨床実習に向けて、円滑に鍼灸臨床の一連の流れである患者接遇、医療面接、身体診察、施術などを実践できることを到達目標とする。			
2 授業内容			
1回	イントロダクション、試験概要説明		
2回	医療面接練習①		
3回	医療面接練習②		
4回	取穴練習		
5回	鍼灸実技練習		
6回	理学検査、東洋診察練習		
7回	プレ臨床実習1		
8回	プレ臨床実習2		
9回	プレ臨床実習3		
10回	総合練習1		
11回	総合練習2		
12回	技能検定1（医療面接、東洋医学的診察）		
13回	技能検定2（鍼、灸、理学検査、取穴）		
3 履修上の注意			
実技細則を順守すること。自身が臨床を行うことをイメージして実習に臨むこと。			
4 準備学習（予習・復習等）の内容			
鍼灸基礎実技および応用実技、経絡経穴概論、鍼灸診察学、鑑別診断学の知識は必須である。しっかり復習しておくこと。			
5 教科書			
6 参考書			
7 成績評価の方法			
医療面接、身体診察（東洋医学的・西洋医学的）、取穴、鍼灸実技について、各項目を評価する。 不合格な項目があるものは3年次の臨床実習での施術を行うことができない。			
8 その他			
日によって授業時間数が2コマ又は3コマの場合がある為、授業内容（回数）を13回で表記しています。			

専門分野	総合領域	専門科目 A			
遠藤 好美	免許取得後、鍼灸マッサージ治療院に勤務				
山元大樹	臨床歴10年、8万人以上20万症例の臨床経験を持つ				
必修	2単位 (40時間)	講義	2年次		
1 授業科目の概要・到達目標					
〈概要〉 この講義は、鍼灸師として身に付けるべき基礎知識を総合的に学習する。 古代中国から始まった鍼灸医学の現在に至るまでの歴史的変遷について学び、鍼灸医学が発展してきた背景を理解する。また、その背景に基づき「鍼灸師の職域」や「鍼灸師の就職事情」、「ヘルスリテラシー（健康情報を利活用する力）」といったテーマについて学習してゆく。この講義の目的は「鍼灸師」という職業について深く理解し、鍼灸医学の今後の展望や自分自身がどのような鍼灸師になりたいかについて、学生自らが考えながら学習をすすめることである。					
〈到達目標〉 自分をメタ認知することにより、人としてどんな人生を歩みたいか。その上で「鍼灸師」としてどう社会の役に立つことを目指すのか。思い描ける自分になる。鍼灸師という職業について深く理解し、鍼灸医学の今後の展望や自分自身がどのような鍼灸師になりたいかについて、学生自らが考えることができるようになる。					
2 授業内容					
1回	概論：リベラルアーツと3C分析	16回	医学史課題発表		
2回	自分を探求する①	17回	1~6回目の振り返り、患者さんを知る		
3回	自分を探求する②	18回	インサイト（顧客の本音）を探る		
4回	自分を探求する③	19回	対患者コミュニケーション		
5回	キャリアを思い描く（4つの働き方など）	20回	日本の課題、まとめ		
6回	ライフデザイン（お金の教養など）				
7回	鍼灸の安全性について①国内事例				
8回	鍼灸の安全性について②海外事例				
9回	鍼灸研究とEBM				
10回	鍼灸研究の現在①				
11回	鍼灸研究の現在②				
12回	医学史上の重要人物①				
13回	医学史上の重要人物②				
14回	医学史上の重要人物③				
15回	医学史上の重要人物④				
3 履修上の注意					
自分がどのような鍼灸師になりたいのかをイメージしながら臨むこと。参加型の授業の場合は積極的态度で臨むこと。					
4 準備学習（予習・復習等）の内容					
5 教科書					
6 参考書					
7 成績評価の方法					
提出課題及び最終評価のレポート提出で評価を行う。					
8 その他					